

国際派プロフェッショナル

World Class Japanese Professionals 023

グローバルに活躍する
日本人プロフェッショナルが語る、
仕事、自分自身、言葉……。

取材・文◎原 智子
写真◎編集部

海外のCSRの視点を広める

「CSRは、企業の社会的責任」と訳されていますが、企業が本来の事業活動を行う際に、経済だけでなく、環境や社会にも良い影響を与えていくという考え方なんです」と語るのはサステイナビジョン株式会社の下田屋毅さん。2010年、ロンドンに同社を設立し、現在はイギリスに進出している日本企業を中心にCSRや環境関連のコンサルティングやリサーチ、セミナーを行っている。

環境や社会にも良い影響を与えることを企業活動を通じて求めるCSRは、倫理、人権、製品、サプライチェーンなど幅広い



グローバルな視点からのCSRを伝える



しもたや・たけし：1967年、神奈川県茅ヶ崎市生まれ。1991年川崎重工工業株式会社に入社。工場管理や環境ビジネスの新規事業会社立ち上げに携わる。2007年にイギリスに休職扱いで留学（後に退職）。イーストアングリア大学に留学し、08年環境科学修士修了、09年にランカスター大学MBA修了。10年にCSR・環境のコンサルティング会社「サステイナビジョン株式会社 (Sustainavision Ltd.)」をロンドンに設立。

範囲に及ぶ。グローバル企業のナイキは、かつて海外の取引工場の児童労働・低賃金労働が発覚して国際的非難を浴び、以来、CSRを徹底させるようになった。CSRは、企業の経営の根幹に関わっているのだ。「日本企業もCSR担当部署を置き、力を入れていますが、海外での事業活動を含めてCSRを実践している企業が少ないように思います。グローバルな視点からのCSRの重要性を認識する必要があります」と下田屋さん。欧州のCSRコンサルタント「グ会社とのパートナーシップ締結により、今年2月と5月にはCSRの「サステナビリティ（CSR）プラクティショナー」の資格講習を東京で開催した。

40歳でイギリスに留学

さつそうとした国際派ビジネスパーソンという雰囲気の下田屋さんだが、意外なことに留学する前は国際ビジネスとは縁がなかったという。大学卒業後就職した川崎重工工業株式会社では、ずっと国内での業務に携わっていたのである。「海外で働くことに興味があって、海外部門への配属を希望していましたが機会がありませんでした」。約10年在籍した工場管理部では、特に安全衛生の基準と体制づくりに力を入れ、「安全内部監査制度」の企画・導入を実現した。また、環境ビジネスの新規事業会社立ち上げメンバーに選出され、廃棄物から化石燃

Frontier



(左) 今年2月に東京で開催した、CSRセミナー「欧州・北米と日本のCSR(サステナビリティ)との違いを考える」でレクチャーをする下田屋さん。(右) ロンドンでの日本企業向けのCSRセミナーの様子

料の代替燃料を製造する新エネルギー普及に関するマーケティング、企業への導入提案などにも携わった。いずれもやりがいのある仕事だったという。一方、海外で仕事をする希望も消えることはなかった。英会話教室に通うなど英語の勉強をずっと続け、TOEICは海外部門レベルとされる800点を当時クリアしている。

留学を決意したのは36歳の時だ。国際的ビジネススキルを身に付け、海外で環境関係の仕事をするに目標を転換したのである。英語の勉強はTOEICからTOEFLに切り替わった。こうして4年後、07年に下田屋さんは休職扱いでイギリスの大学院への留学を実現させる。その後、退職。日本企業で中堅社員として順調にキャリア、実績を築いてきた人としてはかなり思い切った決断といえよう。

「職場での責任も増え、やりがいもありましたが、10年後、20年後の自分がどのようになつていたいかを考えた時に、やはり海外でチャレンジすることが必要だと感じたのです」と留学に踏み切った理由を語る。

大事なのは「やろうと決める」こと

1年で修士が取得できる点がイギリスを留学先と決めた理由だったと下田屋さん。1年目はイーストアングリア大学で環境科学の修士を、2年目にはランカスター大学でMBAに進んだ。2年間で2つの修士取

得を目指す留学生活は、当然のことながら非常に忙しい日々となった。

「修士の1年プログラムは内容が非常に凝縮されているので、ひたすら勉強でした。睡眠時間は1日3、4時間ということが多く、時には準備が間に合わずに徹夜も遊んでいる余裕はあまりなかったです」とハードな留学生活を振り返る。

ディスカッションで思い付いたことを自由に発言する欧米系の学生に対し、下田屋さんは当初、話の流れをうかがいつつ発言する日本的やり方に慣れていたため、なかなか発言できず苦労したとか。また、欧州で重視されるCSRに強い関心を持つよう



決断したら後は必要なことをやる。
そうすれば道は
おのずと開けていく。

になったことが起業のきっかけともなった。「何より、さまざまな文化圏の人たちと交流できたことが貴重な経験でした。卒業後帰国した友人に会いにボツワナとモザンビークを訪れたことがあるのですが、留学せず、日本にそのままいたら彼らと知り合うこともなく、どちらの国にも行く機会はなかったでしょうね」。

留学をきっかけに下田屋さんの世界は一気に広がったのである。大事なのは「やろうと決めること」だと、下田屋さん。「決断したら後は必要なことをやる。そうすれば道はおのずと開けていく。今はそれを強く実感しています」と力強く語った。

※1 Corporate Social Responsibility の略。

※2 イギリスにおける環境・CSRの主要団体 IEMA (The Institute of Environmental Management and Assessment) 認定の資格。